平成　22　年度

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	1491000012	事業の開始年月日	平成18年4月1日
		指定年月日	平成18年4月1日
法人名	有限会社 ケアーメディカルことり		
事業所名	グループホームことりの森		
所在地	（　245-0051　） 神奈川県横浜市戸塚区名瀬町613-1		
サービス種別 定員等	□　小規模多機能型居宅介護	登録定員　名 通い定員　名 宿泊定員　名	
	■　認知症対応型共同生活介護	定員　計　18 名 ユニット数　2 ユニット	
自己評価作成日	平成22年9月8日	評価結果 市町村受理日	平成22年10月22日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

・毎月行っている季節感のある行事。利用者・職員が準備段階より熱心に取り組んでいる。
・毎月作成し、御家族にお送りしている『ことりの森たより』。行事を中心に利用者の方々のご様子を写真入りでお伝えしている。
・職員の離職がほとんど無い為に、顔なじみの安心した雰囲気ができている。
・表札をはじめ、ほとんどの物が手作りで温かみのある空間づくり。
・リビングから見える自然の景色、絶やさずに植え続けている色とりどりの花。

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	ナルク神奈川福祉サービス第三者評価事業部		
所在地	神奈川県横浜市西区南浅間町8-22-207		
訪問調査日	平成22年9月29日	評価機関 評価決定日	平成22年10月15日

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

＜事業所の優れている点＞
◇事業所は理念に「健康管理の充実」を掲げて、看護師である管理者と看護師職員の二人の看護体制で利用者の健康管理に対応している。
また、医療連携体制加算にも加入しており協力医の支援を得て、24時間医療処置が可能な体制ができており、利用者と家族の安心感につながっている。
◇終末期対応のマニュアルに基づき、管理者が職員の教育に当っており、職員の半数が痰の吸引に対応でき、医師の指示で酸素吸入や点滴を行うなど、利用者が安心して終末期を過ごせるように支援している。

＜事業所が工夫している点＞
◇利用者が日常を穏やかな笑顔で過ごせるよう、手洗いとうがいを励行し、また、食前の口腔体操、早口言葉を全員で行なって誤嚥防止、咀嚼力向上、脳の活性化に活かすなど、利用者、職員共に健康の維持に努めている。
◇加入している自治会から、地域行事の情報を得て、利用者が盆踊りやお茶会など地域の行事に参加したり、中学生が福祉体験学習で事業所を訪れ利用者と交流するなど、地域の一員として地域住民と積極的に交流している。

【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
Ⅰ　理念に基づく運営	1 ～ 14	1 ～ 7
Ⅱ　安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15 ～ 22	8
Ⅲ　その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23 ～ 35	9 ～ 13
Ⅳ　その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36 ～ 55	14 ～ 20
Ⅴ　アウトカム項目	56 ～ 68	

事業所名	グループホームことりの森
ユニット名	かえで・もみじ

Ⅴ　アウトカム項目

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 （参考項目：23,24,25）	○	1，ほぼ全ての利用者の
			2，利用者の2/3くらいの
			3．利用者の1/3くらいの
			4．ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 （参考項目：18,38）	○	1，毎日ある
			2，数日に1回程度ある
			3．たまにある
			4．ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 （参考項目：38）	○	1，ほぼ全ての利用者が
			2，利用者の2/3くらいが
			3．利用者の1/3くらいが
			4．ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 （参考項目：36,37）	○	1，ほぼ全ての利用者が
			2，利用者の2/3くらいが
			3．利用者の1/3くらいが
			4．ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 （参考項目：49）		1，ほぼ全ての利用者が
			2，利用者の2/3くらいが
		○	3．利用者の1/3くらいが
			4．ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安な区過ごせている。 （参考項目：30,31）	○	1，ほぼ全ての利用者が
			2，利用者の2/3くらいが
			3．利用者の1/3くらいが
			4．ほとんどいない
62	利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 （参考項目：28）	○	1，ほぼ全ての利用者が
			2，利用者の2/3くらいが
			3．利用者の1/3くらいが
			4．ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 （参考項目：9,10,19）	○	1，ほぼ全ての家族と
			2，家族の2/3くらいと
			3．家族の1/3くらいと
			4．ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 （参考項目：9,10,19）		1，ほぼ毎日のように
			2，数日に1回程度ある
		○	3．たまに
			4．ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 （参考項目：4）		1，大いに増えている
		○	2，少しずつ増えている
			3．あまり増えていない
			4．全くいない
66	職員は、活き活きと働けている。 （参考項目：11,12）	○	1，ほぼ全ての職員が
			2，職員の2/3くらいが
			3．職員の1/3くらいが
			4．ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。		1，ほぼ全ての利用者が
		○	2，利用者の2/3くらいが
			3．利用者の1/3くらいが
			4．ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。		1，ほぼ全ての家族等が
		○	2，家族等の2/3くらいが
			3．家族等の1/3くらいが
			4．ほとんどいない

ことりの森

自己評価	外部評価	項　　目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ　理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎月のケアーカンファレンス等にとり入れ具体的な働きかけを職員全員で行っている。	・法人の理念である「認知症を理解し安心して過ごせるよう支援」に加え、事業所独自の理念「人格尊重・健康管理の充実・笑顔のあふれる家庭的な生活」を掲げている。 ・管理者と職員は毎月のケアカンファレンスで、理念の具現化を話し合っている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に入会している。盆踊りは利用者の介護度につれ、参加できない状況。散歩途中、近所の方と挨拶、音楽会に参加。	・自治会に加入しており、お祭りを見物したり音楽会に参加して、地域住民と交流している。 ・毎年中学生4名を福祉体験学習で受け入れ、利用者と交流している。 ・利用者が近所の料理教室に参加し、料理をご馳走になっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	電話で相談や見学は受け入れている、又、地域ケアプラザで地域の認知症をかかえる家族の為に勉強会を行なった。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	状況の変化がないので、年2～3回となっている。家族と地域の方のと会話も活発に行われている。	・運営推進会議は、メンバーに民生委員、住民代表、地域包括支援センターの職員、家族代表が参加して、年2～3回開催している。 ・会議では事業所の状況を報告後意見交換し、また地域の情報を得て、サービスの向上に活かしている。	・今後更に、事業所に対する地域の理解と支援が得られるよう、運営推進会議の開催頻度を増やすことが期待されます。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	生活保護の方の受け入れ相談も行なっている。名瀬地域包括支援の方に相談させて頂いている。とうちゃんの台所に参加。	・戸塚区主催のグループホーム連絡会に参加して、運営状況や空室情報などの情報交換を行っている。 ・地域包括支援センターからの依頼で、認知症講座の講師を務めることがある。	

ことりの森

自己評価	外部評価	項　　目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束排除宣言を掲げており、全職員が身体拘束の定義や及ぼす弊害を正しく理解している。	・身体拘束防止マニュアルがある。職員が参加した外部研修内容を会議で報告し、全員で共有している。 ・身体拘束排除宣言を事務室前に掲示して、職員に徹底している。 ・玄関は日中は開放している。居室に鍵はあるが施錠していない。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	月１回のカンファレンスで虐待に対しての話し合い（どのような事が虐待になるのか等）を職員全員で行い、防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見人制度の利用者は現在１名おられ、行政書士と連絡を取り合いながら制度の理解を高め、活用している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	パンフレットに理念を一番に記載し利用者のご家族に説明している。共に重要事項もホーム玄関に掲示している。見学・面接・入居時に十分説明している。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	定期的な運営推進会議を行ない、ご家族・地域の方々より意見をいただき反映させている。また、相談を随時受け入れている。	・家族の意見、要望は面会時のほかクリスマス会や敬老会の機会を利用して聴取するようにしている。 ・毎月、電話で体調などを連絡する際にも要望や相談を受け、検討結果を報告すると共に、内容に応じて運営に反映している。	

自己評価	外部評価	項　　目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に１回のカンファレンスの中で意見交換などを行ない、日々のケアに反映させている。	・毎日の申し送りや毎月のカンファレンスで、職員の意見や提案を聞き、内容に応じて運営に反映している。 ・強い日差しを避けるため、ベランダにパラソルを用意し、居間の窓にすだれを掛けたなどの事例がある。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	カンファレンスにおいては全職員への指導･助言を行ない、日常の業務の中では個々の職員に対し状況に応じた声かけを行ない前向きに勤務できる状況をつくっている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員が経験者が多く認知症研修や相互研修を多々行なってきている。 様々な研修の中から個々の職員に応じた研修をうけてもらっている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	相互訪問は行っていない		
Ⅱ　安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前には必ず面談をさせてもらい、状況把握とともに職員の存在を把握していただき安心感を持っていただく努力を行なっている。		

ことりの森

自己評価	外部評価	項　　目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前には必ず面談をさせてもらい、様々な相談をお聞きして納得した上で入居していただいている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	現在まで苦情が無い為、事例記録はなし。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	レクや季節に応じた行事などを多くもち、ご利用者、スタッフともに同じ感動や共感を持つように心がけている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	お誕生日にはレストランでの外食やお花見、バーベキュー大会、敬老会、運動会、クリスマス会、豆まきなど行なっている。又地域の芸術祭、盆踊りなどにも出掛けている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族や親類が好きな時間に面会に来られ、外食や買い物へ外出される。又、年賀状を制作し送る。ホームでのイベント・パーティーにはご家族を招待している。	・馴染みの人の来訪時には、お茶を出してもてなし、いつでも気楽に来られるよう、支援に努めている。 ・年末に職員が宛名書きを手伝って、家族や友人に手作りの年賀状を出すなど、利用者との関係継続を支援している。	

自己評価	外部評価	項　　目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	多種多様なレクリエーションを考案し、お互いがコミュニケーションを図れる様な環境を保てるよう、常に意識している。協力してひとつの物を作り上げたり、運動会でチームワークを発揮するリレーなどを行なったりしている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	定期的にスタッフやご利用者に会いに、お花を持ち遊びに来られたりされている。		
Ⅲ　その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	本人の意見を傾聴し、日常生活の中から出来ることを定期的なカンファレンス会議にて対策を検討している。認知症のため、言葉と気持ちに違いがあり、行動や表情の観察を十分に行ない本人の意向を見極めている。	・入居直後は、アセスメントや生活歴を参考にし、その後は、日常生活の中で観察し、意向を聞き出している。 ・利用者の表情や目の輝きを観察して思いを汲み取る努力をし、申し送りやカンファレンスで情報を共有している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	アセスメント表をｽﾀｯﾌ一同で定期的に作成し、ケアの方針を立てるのに役立てている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	定期的に作成した２４時間アセスメント表をもとに身体・精神状態に考慮したプランを作成している。		

自己評価	外部評価	項　　目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日常の業務時・カンファレンス時にスタッフ全員の意見を傾聴し、プランに盛り込んでいる。又作成した書類は所定のﾌｧｲﾙに保存しいつでもスタッフが確認できるようになっている。	・本人との日頃の関わりの中で聴取した思いや意向を、カンファレンスで検討し、家族の要望、医療情報を入れて、介護計画を作成している。 ・毎月カンファレンスで情報交換し、通常3か月、安定してくると6～8か月毎に計画を見直している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	午前・午後、時間ごとに記録している。毎日のレクを中心に具体的に記録し介護に反映させ、介護計画作成に役立てている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご家族との外出、外泊は自由である。面会時間もご家族の好きな時間に対応している。通院、入院時の対応も行なっている		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近くの特別養護老人ホームへ芸術祭等に出掛け、徘徊者に対しての協力体制について話し合いをしている。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	１回/月の往診、１回/2wの処方、検査も定期的に行ない常にDrとの伝達も出来る。	・入所前のかかりつけ医への継続受診を支援しているが、現在は利用者全員が、協力医をかかりつけ医としている。 ・月1回は内科医の、また随時歯科医の訪問診療がある。通院介助は家族にお願いし、不都合な場合は職員が付添っている。	

自己評価	外部評価	項　　目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員が２名（管理者・職員）おり、日々の観察・申し送り事項から利用者の健康管理に勤めている。緊急時にも随時連絡体制が整っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時からＤｒとの話し合いを行ない、家族の希望も聞き入れながら早期の退院を行っている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	現在までに癌の末期の方を6名受け入れ終末期を送っていただいている。往診Ｄｒとの連携で点滴治療や酸素なども行なっている。入居中に胃ろうになった方も受け入れている。	・入居時に、常時医療行為が必要になるまで、対応する方針を家族に伝えて了解を得ている。 ・重度化した場合は、早目に家族、医師、看護師、職員で話合い、方針を共有連携して支援している。 ・職員の教育は、看護師である管理者が個別にOJTにて実施している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	月１回のカンファレンスや日々の申し送りの中で必要に応じて行なっている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難方法の体制・マニュアルは出来ている。隣の住人の方より直通電話もOKとの事でいつでも手伝ってくださるとの言葉は頂いている。また、戸塚消防署の方に火災通報等の指導を受けている。	・年２回消防署の指導で避難訓練を行っている。 ・近くの住民の他近隣の職員3名から、災害時の応援の申し出がある。 ・非常用の食料、水、備品などは3日分備蓄している。	

ことりの森

自己評価	外部評価	項　　目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ　その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個々にあった言葉遣いを心がけ職員全員が同じ様に接するようしている。清潔を心がけ、見守り、声掛けをしている。	・職員は、採用時に管理者から個人情報保護の説明を受けて「誓約書」を提出している。 ・職員は、利用者のプライバシーを損なわないよう、言葉遣いや対応に留意している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	散歩へと促す際に気持ちが良い、足のリハビリになりますよ等、色々な声掛けをしている。個人の誕生日には希望を聞き入れ外食やメニューを決めている。レクリエーションに関しても、何をしたいかを決めていただくこともある。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	植物への水遣り、洗濯物干し、食器洗いを自ら手伝って下さる。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	月に１～２回の美容師の訪問があり希望にあったカットやヘヤカラーを行なっている。洋服の訪問販売も利用し、自分の目で好みに合ったものを購入してもらっている。居室担当者が身の回りのお手伝いを行なっている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の時間もゆったりとしている。食べる時の姿勢などにも気配りする。介助の必要な方には横で職員が付添っている。	・利用者は食事の準備や食器洗いなど、その方の能力に応じ出来る範囲で手伝っている。 ・散歩の際、近隣の農家で手に入れた野菜を調理し、メニューに旬の味を取り入れている。 ・BGMを流し、職員と一緒に会話をしながら食事を楽しんでいる。	

ことりの森

自己評価	外部評価	項　　目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々で状態変化時、水分チェック表で状態は把握してある。毎日食事摂取量のチェックをしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後職員の見守りの中、入歯の手入れ、自歯の磨き、うがい等をなるべく、ご自身で出来るよう支援している。又AM・PMに一回づつイソジンガーグル使用のうがいを実施している。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	リハビリパンツ・パット等が必要になった時は説明を充分に行い声掛け・誘導・見守りにて介助している。汚染が無い時は「すごいね」・「よかったね」等の声掛けをしている。	・トイレでの排泄に達成感を感じてもらえるように、タイミングをみて声かけ誘導し、励ましていくことで、入所時より自立度が改善された方が多い。 ・車椅子の方にも、意向を汲んでトイレでの排泄を支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日、体操・散歩などで身体を動かしていただいている。又、ヨーグルト・食物繊維の摂取を心がけている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	週２回の入浴で１人ずつ浴室に入り、温度の調節や自立に向けて見守りをしている。又、夏場は希望にて週３回の入浴としている。	・入浴は週2回（夏は3回）、利用者一人ひとりの個性に合わせて、ゆったりと入れるよう順番を決めることで、安心して入浴を楽しめるようになった。 ・菖蒲や柚子湯、バラ風呂などで雰囲気を変えて季節感を出している。	

ことりの森

自己評価	外部評価	項　　目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	１日の中でメリハリをつけている。外気浴・体操・散歩等にて体内時計を自然に身に付け夜間は良眠している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服管理は看護婦が行なっている。利用者各自に朝・昼・晩・眠前と分けており、日にちも記入され、解かり易く管理している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居者に適した役割を分担したり、意見を聴いて、本人のしたい事等出来る事には参加して貰う。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日は、午前中の散歩を行なう様にし、四季の変化を体感して頂いている。又近隣の行事、催しに積極的に参加するように心がけている。一人一人にに声かけし、参加者を募る。	・自然豊かな近隣の散歩を、車椅子の方も職員の介助で一緒に楽しんでいる。テラスで日光浴を行うこともある。 ・フラワーパークへの遠出や、農園での野菜の収穫など、季節を感じる車での外出も心がけ支援している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現在入居中の方では１人ですが自己管理しています。洋服屋さん等が来所された時は自分で支払っています。		

自己評価	外部評価	項　　目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話等の取り次時、他入居者への影響を考え居室にて話して頂いている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	トイレ等の表示も全て手作り。調度品は明るく・温かみのある物を揃えている。	・リビングは開放的で明るく、生花や畑の作物を飾り、季節感を味わえるように工夫している。共用空間は清潔で気になる臭気はない。 ・なつメロや演歌、クラシック音楽などを流して、利用者はゆったりと落ち着いて過ごしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テレビの前に畳・カーペットを敷き、ソファーでくつろいでいただいている。又、テラスには縁台を置き自由に外を眺めていただいている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居案内に記載し、ご家族にも説明を行ない協力してもらっている。	・居室にはベッド、仏壇、衣類タンス、テレビ、椅子など使い慣れた家具を持ち込み、家族の写真、貼り絵などの自分の作品を飾って、居心地よく過ごせるよう工夫している。 ・担当職員が、採光・通風にも気を配り、整理整頓がなさて清潔が保たれている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	生活スペースには手すり設置ずみ。浴室にはスベリ止めマット・シャワーチェアーを用いている。		

ことりの森

自己評価	外部評価	項　　目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ　理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎月のケアーカンファレンス等にとり入れ具体的な働きかけを職員全員で行っている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に入会している。盆踊りは利用者の介護度につれ、参加できない状況。散歩途中、近所の方と挨拶、音楽会に参加。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	電話で相談や見学は受け入れている、又、地域ケアプラザで地域の認知症をかかえる家族の為に勉強会を行なった。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	状況の変化がないので、年2～3回となっている。家族と地域の方のと会話も活発に行われている。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	生活保護の方の受け入れ相談も行なっている。名瀬地域包括支援の方に相談させて頂いている。とうちゃんの台所に参加。		

ことりの森

自己評価	外部評価	項　　目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束排除宣言を掲げており、全職員が身体拘束の定義や及ぼす弊害を正しく理解している。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	月１回のカンファレンスで虐待に対しての話し合い（どのような事が虐待になるのか等）を職員全員で行い、防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見人制度の利用者は現在１名おられ、行政書士と連絡を取り合いながら制度の理解を高め、活用している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	パンフレットに理念を一番に記載し利用者のご家族に説明している。共に重要事項もホーム玄関に掲示している。見学・面接・入居時に十分説明している。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	定期的な運営推進会議を行ない、ご家族・地域の方々より意見をいただき反映させている。また、相談を随時受け入れている。		

自己評価	外部評価	項　　目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に１回のカンファレンスの中で意見交換などを行ない、日々のケアに反映させている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	カンファレンスにおいては全職員への指導･助言を行ない、日常の業務の中では個々の職員に対し状況に応じた声かけを行ない前向きに勤務できる状況をつくっている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員が経験者が多く認知症研修や相互研修を多々行なってきている。 様々な研修の中から個々の職員に応じた研修をうけてもらっている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	相互訪問は行っていない		
Ⅱ　安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前には必ず面談をさせてもらい、状況把握とともに職員の存在を把握していただき安心感を持っていただく努力を行なっている。		

ことりの森

自己評価	外部評価	項　　目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前には必ず面談をさせてもらい、様々な相談をお聞きして納得した上で入居していただいている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	現在まで苦情が無い為、事例記録はなし。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	レクや季節に応じた行事などを多くもち、ご利用者、スタッフともに同じ感動や共感を持つように心がけている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	お誕生日にはレストランでの外食やお花見、バーベキュー大会、敬老会、運動会、クリスマス会、豆まきなど行なっている。又地域の芸術祭、盆踊りなどにも出掛けている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族や親類が好きな時間に面会に来られ、外食や買い物へ外出される。又、年賀状を制作し送る。ホームでのイベント・パーティーにはご家族を招待している。		

自己評価	外部評価	項　　目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	多種多様なレクリエーションを考案し、お互いがコミュニケーションを図れる様な環境を保てるよう、常に意識している。協力してひとつの物を作り上げたり、運動会でチームワークを発揮するリレーなどを行なったりしている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	定期的にスタッフやご利用者に会いに、お花を持ち遊びに来られたりされている。		
Ⅲ　その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	本人の意見を傾聴し、日常生活の中から出来ることを定期的なカンファレンス会議にて対策を検討している。認知症のため、言葉と気持ちに違いがあり、行動や表情の観察を十分に行ない本人の意向を見極めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	アセスメント表をｽﾀｯﾌ一同で定期的に作成し、ケアの方針を立てるのに役立てている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	定期的に作成した２４時間アセスメント表をもとに身体・精神状態に考慮したプランを作成している。		

ことりの森

自己評価	外部評価	項　　目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日常の業務時・カンファレンス時にスタッフ全員の意見を傾聴し、プランに盛り込んでいる。又作成した書類は所定のﾌｧｲﾙに保存しいつでもスタッフが確認できるようになっている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	午前・午後、時間ごとに記録している。毎日のレクを中心に具体的に記録し介護に反映させ、介護計画作成に役立てている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご家族との外出、外泊は自由である。面会時間もご家族の好きな時間に対応している。通院、入院時の対応も行なっている		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近くの特別養護老人ホームへ芸術祭等に出掛け、徘徊者に対しての協力体制について話し合いをしている。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	１回/月の往診、１回/2wの処方、検査も定期的に行ない常にDrとの伝達も出来る。		

ことりの森

自己評価	外部評価	項　　目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員が２名（管理者・職員）おり、日々の観察・申し送り事項から利用者の健康管理に勤めている。緊急時にも随時連絡体制が整っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時からＤｒとの話し合いを行ない、家族の希望も聞き入れながら早期の退院を行っている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	現在までに癌の末期の方を6名受け入れ終末期を送っていただいている。往診Ｄｒとの連携で点滴治療や酸素なども行なっている。入居中に胃ろうになった方も受け入れている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	月１回のカンファレンスや日々の申し送りの中で必要に応じて行なっている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難方法の体制・マニュアルは出来ている。隣の住人の方より直通電話もOKとの事でいつでも手伝ってくださるとの言葉は頂いている。また、戸塚消防署の方に火災通報等の指導を受けている。		

ことりの森

自己評価	外部評価	項　　目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ　その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個々にあった言葉遣いを心がけ職員全員が同じ様に接するようしている。清潔を心がけ、見守り、声掛けをしている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	散歩へと促す際に気持ちが良い、足のリハビリになりますよ等、色々な声掛けをしている。個人の誕生日には希望を聞き入れ外食やメニューを決めている。レクリエーションに関しても、何をしたいかを決めていただくこともある。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	植物への水遣り、洗濯物干し、食器洗いを自ら手伝って下さる。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	月に１～２回の美容師の訪問があり希望にあったカットやヘヤカラーを行なっている。洋服の訪問販売も利用し、自分の目で好みに合ったものを購入してもらっている。居室担当者が身の回りのお手伝いを行なっている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の時間もゆったりとしている。食べる時の姿勢などにも気配りする。介助の必要な方には横で職員が付添っている。		

ことりの森

自己評価	外部評価	項　　目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々で状態変化時、水分チェック表で状態は把握してある。毎日食事摂取量のチェックをしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後職員の見守りの中、入歯の手入れ、自歯の磨き、うがい等をなるべく、ご自身で出来るよう支援している。又AM・PMに一回づつイソジンガーグル使用のうがいを実施している。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	リハビリパンツ・パット等が必要になった時は説明を充分に行い声掛け・誘導・見守りにて介助している。汚染が無い時は「すごいね」・「よかったね」等の声掛けをしている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日、体操・散歩などで身体を動かしていただいている。又、ヨーグルト・食物繊維の摂取を心がけている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	週２回の入浴で１人ずつ浴室に入り、温度の調節や自立に向けて見守りをしている。又、夏場は希望にて週３回の入浴としている。		

ことりの森

自己評価	外部評価	項　　目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	１日の中でメリハリをつけている。外気浴・体操・散歩等にて体内時計を自然に身に付け夜間は良眠している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服管理は看護婦が行なっている。利用者各自に朝・昼・晩・眠前と分けており、日にちも記入され、解かり易く管理している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居者に適した役割を分担したり、意見を聴いて、本人のしたい事等出来る事には参加して貰う。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日は、午前中の散歩を行なう様にし、四季の変化を体感して頂いている。又近隣の行事、催しに積極的に参加するように心がけている。一人一人にに声かけし、参加者を募る。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現在入居中の方では１人ですが自己管理しています。洋服屋さん等が来所された時は自分で支払っています。		

ことりの森

自己評価	外部評価	項　　目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話等の取り次時、他入居者への影響を考え居室にて話して頂いている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	トイレ等の表示も全て手作り。調度品は明るく・温かみのある物を揃えている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テレビの前に畳・カーペットを敷き、ソファーでくつろいでいただいている。又、テラスには縁台を置き自由に外を眺めていただいている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居案内に記載し、ご家族にも説明を行ない協力してもらっている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	生活スペースには手すり設置ずみ。浴室にはスベリ止めマット・シャワーチェアーを用いている。		

目　標　達　成　計　画

事業所名　グループホームことりの森

作成日　平成22年10月16日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目　　標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	4、10	運営推進会議の開催は、状況の変化がなく、年に2～3回行っている程度である。	運営推進会議を、年間5回から6回開催する。	ご家族や地域の住民に新たな取り組みについて、ご理解とご協力をお願いする。	1年間
2	49	入居者は、自分の好きなところに出かけているか？	入居者の要望に沿った場所に出かけるようにする。	認知症である利用者を理解しながら、日常会話の中で要望を傾聴し、把握しながら、外出の企画に盛り込んだ計画を立てる。	1年間
3					
4					
5					